



謹賀新年

令和五年改歳の令辰にあたり
当寺檀信徒ご一同様秋葉講中
の皆様梅花講・月例坐禅会・
写経会の皆様 さらに有縁無縁
信心の願主皆様の健康第一に
福寿ご多幸を心よりご祈念
申し上げます

新井寺住職
山内一同
花屋秋葉山

令和5年 No.82
初春 **ねんが**号

あきばさん

発行人 / 発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
電話 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968

「うさぎ」年にちなんで

『うさぎとかめ』と「油断大敵」

当山住持

過去はすでに過ぎ去り、帰っては来ません。また、未来は訪れるかどうか、わかりません。いうまでもなく、私どもは、たった今の現在に生かされています。

したがって、たった今の現在を、いかに自覚と責任を持ち、目的に向かって自由に生き抜いていくかが、諸行無常の人生を悔いなく生かされる道でしょう。

どうぞ、皆様におかれましては、新年のはじめにあたり、たった今に生かされている現実の人生に悔いを残さぬよう、夢と希望を持って忍耐強く努力精進されますことを念じ上げます。

『うさぎとかめ』という昔から親しまれている唱歌があります。ウサギに「歩みのろさ」をばかにされたカメが、かけっこ勝負を挑みます。ウサギは負ける

はずはないと油断をして途中でお昼寝をしてしまい、こつこつと歩みを進めたカメに負けてしまうのです。

この歌は、「油断大敵」という人生の教訓ともされています。ものごとを行なうにあたって、油断をすると、まさか、まさかの失敗の原因となり、思いもしなかった人生の現実をいやというほど思い知らされることにもなります。まさに、人生は「油断大敵」です。

当山は山号を「秋葉山」と称し、火防守護（あきばさん）の秋葉三尺坊大権現様をおまつり申し上げます。秋葉三尺坊大権現様は、今からおよそ千二百年前に信州（長野県）に出現され、護摩祈祷などの特別な修行によって、摩訶不思議な神通力を得られました。そして、世の中の七難八苦の中でも、もっとも恐ろしい「火難」の苦しみから人びとを救済され、火防信仰が深まり、今日に至ったものと伝えられています。

秋葉三尺坊大権現様の教えの中にも「油断大敵 火の用心」の大義名分が示されています。世の中には、思いがけない天災・人災がいつ発生するかわかりません。「うさぎ」年のひとつの教訓として、「油断大敵」ということを常に自覚し、本年も、平和な年でありますよう、精進いたしましょう。

合掌

今年もよろしくおねがいます

真心という調味料

山本崇文

一杯のお味噌汁に出会いました。「美味しい」と思うことはよくあることですが、それは優しさに溢れる心に残る味でした。食材や調味料は、私が日常普段から使っているものと同じ。それなのに、なぜ私にはこの味が出せないのかと考えました。

ふと、三十年前、永平寺で修行していた時のことを思い出しました。料理を作る典座寮てんざに配属になり、典座老師が毎日のように口にしていた言葉があります。



「料理は真心が大事。忙しさに追われて、させられていくという思いになり、疎かになりがちだけれども、忘れてはいけないことですよ。いつもさせていた。ただ、という感謝の思いとともに、真心を込めることを大事にしましょう。」

箸をとり、料理を口にした人が安らぎを感じる味を作り出すには「真心」という調味料は不可欠なのです。

道元禅師の言葉です。

身を削り人に尽くさんすりこぎのその味知れる人ぞ尊し

料理のみならず、すべての物事に真心を込めていかななくてはなりません。きつとその真心という調味料のおかげで、それを受ける人が安らぎを感じる事ができるのだと思います。改めて大切なことに気づかされました。正に、その一杯のお味噌汁は、そんな安らぎを感じる味だったのです。

本年もよろしくお願い申し上げます。

合掌

(野田市 浄禅寺住職・戊とし)

朝霧は晴れ

松井純照

今年は、浄禅寺にお世話になって十年になります。同じ千葉県内ではありますが、関東平野の真つ只中、江戸川と利根川に挟まれ冬はとても寒く、生まれ育った新井寺と五度以上違う日もざらです。

また、旧家が多く、今でも昔からの風習や習慣が多く継承されています。来たばかりの頃は、どれも初めて見聞きするものばかり。戸惑うことばかりでした。ですが、今では人様の手を借りずに努められることも多くなりました。これは、気さくに声をかけてくださり、気にかけてくださるお檀家さんのおかげです。

浄禅寺に来たばかりの頃のある朝、カーテンを開けると、窓の外は真つ白。何事かと急いで外に出てみると、「霧」でした。私は、初めて見るその深い霧に誘われるかのように、霧の中をズンズン入ってみました。いつもとは違う景色に、その向こうに何かがあるのではないか？どんなことが起きているのだろうか？と、境内を歩き回りました。

しかし、当たり前ですが、霧に覆われて視界が悪いだけで、何も変わったことはありませんでした。

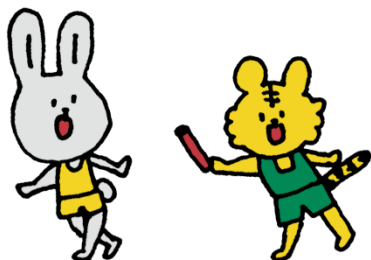
けれども、一つだけ変化がありました。それは、私の着ていた作業衣がしっとり濡れていたことです。歩き回っている間に、霧の露をずいぶん含んでしまったようです。

霧の中を歩き回ったら作業衣が濡れてしまったように、この十年の皆さんとのよき一日一日が、そして、皆さんの親切とまごころが、霧の露のように私の中に染み込み、この土地に慣れ、親しむことができました。

朝の霧が深いほど、その日は晴天になるといわれます。兎にも角にも、本年も皆様方もよき出会いに、ご縁に巡り会えますよう、祈念いたします。

合掌

(松戸市 瓏仙院守塔・寅どし)



半世紀をふりかえって

松井百合子

あけましておめでとうございます。みなさまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昭和・平成・令和の時代とともに齢を重ね、気がつけば、新井寺にご縁をいただいて半世紀になろうとしています。時代は高度経済成長期。田んぼや畑、幅の広い道路があったところには、戸建て住宅やマンション、スーパーマーケットなどが建ち、周囲の生活環境も裏門からの見晴らしのよかった景色も、すっかり様変わりしました。

新井寺も、旧本堂や幼稚園をとりこわして境内の伽藍整備を行ない、おかげさまで、現在は立派なご本堂と客殿を構えるまでになりました。

檀信徒の皆様を重ねて、おいでくださる御寺院様も多く、大変な思いをしながらも、たくさんのことを学ばせていただきましたことを感謝しています。また、一般のご家庭に生まれ育ち、和尚さんを志すご子弟をお預かりして、ともに過ごし、それぞれがお寺を護る住職として、立派に成長してくれたことも、嬉しいご縁でした。

さまざまなことがあった半世紀でしたが、本当に多くの皆様に支えられ、導かれて、そのおかげで今があることに、改めて感謝、感謝です。

お互いさまに、元気に一年を過ごすことができ、心より祈りつつ、本年もよろしくお願いいたします。

合掌

(当山寺族・丑どし)

「かすいさい」の

クラウドファンディング

新井寺とも深いご縁のある、静岡県可睡齋が、昨年九月の台風十五号による「がけ崩れ」の甚大な被害を受けました。国の登録有形文化財「瑞龍閣」が建つ斜面が崩れてしまい、現在は最低限の安全を確保するための応急処置がなされています。復旧工事には相当な費用がかかるとのこと。そこで、可睡齋では「クラウドファンディング」を行ない、工事費用を募っています。

これからも多くの人びとが可睡齋をお参りし、美しい景色と静寂な境内で、心豊かなひとときを過ごすことができますよう、ご支援をお願い申し上げます。

詳細はインターネット検索「可睡齋レディフォー」、もしくはこちらのQRコードからどうぞ。



さがしたって

松井量孝



熱

八木重吉 詩稿

「まずは、自分がたのしみこと。自分がたのしくなければ、講員様にたのしんでいただくことはできませんよ。そして、いつのときも笑顔を忘れてはなりませんよ」。六年前、梅花流特派師範を拝命したときに、ある先生がかけてくださった言葉です。つねに、緊張と不安でいっぱいなのわたしに、「たのしみこと」ができるのだろうかと思いました。けれども、最近、先生がおっしゃったことの意味が少しだけわかったような気がしています。

講習にあたっては、自分なりの予習やさまざまな準備をします。それは、有意義な講習を行なうための工夫と努力、そして責任ともいえましよう。そこには「きょうは参加してよかった」

と講員様に感じていただきたいというねがいがあります。

そのねがいをかなえるために、外にばかり何かを探している自分に気がつきました。それがいつしか焦燥感となり、自分をいつそう不安に追いこんでいたのです。基本的なことや今まで学んできたことをよりていねいに復習し、ぎゅつと深める。そして、緊張や不安を忘れてしまうほどにそこに一つになつて、いまの自分にできる精いっぱいをつとめる。さらに、梅花流の法悦・すばらしさをお伝えするためには、お伝えさせていただくわたし自身が、だれよりもたのしみ、「ぐうつと熱がたかまつて」いなければならぬんだということに、改めて気づかせていただきました。それが先生の言葉であり、この詩が教えてくれる世界なのだと思います。

どんなことも、一生懸命に向きあえばそのおもいは相手に伝わると信じたいものです。この詩の世界を深めることができるよう、何ごとも至心につとめてまいりたいと思います。

みなさまの「清安をお祈りいたします

合掌

(当山 副住職・編集小子・未どし)

しんせいじの 年中行持

一月一日 元旦祝禱諷經

二月十五日 釈尊涅槃會

三月二十一日 春ひがん法要

四月八日 釈尊降誕會

六月九日 先代方丈様報恩忌

七月十六日 おせがき

九月二十三日 秋ひがん法要

十一月十八日 秋葉火防大祭

十二月八日 釈尊成道會

十二月三十一日 年越し坐禅會

※ コロナ禍により 変更や中止となる場合があります。

月例行持

坐禅會 第四日曜日 午後三時から

写經會 第四土曜日 午前十時から

梅花講 (御詠歌) 月二回

午前九時半から

※ 月例行持は現在お休みさせていただきます。